

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2873100560		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	川西ケアセンターそよ風		
所在地	川西市出在家町532-1 (電話)072-757-6880		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年10月4日

【情報提供票より】 (平成19年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 19 人, 非常勤 7 人,	常勤換算26人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
保証金の有無(入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (300,000 円) 無 <input type="checkbox"/>	有りの場合償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> / 無 <input type="checkbox"/>
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (6月30日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	15	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 84.9 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人協和会協立病院	おおたに歯科	藤本医院
---------	-------------	--------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員の深い信頼関係の下、ケアサービスの質の向上に向けて日々努力しているグループホームである。ホームの共有空間には、近隣の人々に頂いた季節の花が活けられ、入居者の家族が描かれた絵を飾る等、家庭的で暖かい雰囲気が感じられ、入居者が居心地よく過ごせる配慮がなされている。「重度化した場合における対応に係る指針」を策定し、医療連携体制を整え重度化に伴うニーズに的確に対応できるよう取り組んでいる。地域の自治会や幼稚園のイベントへの参加・事業所の行事への招待・各種ボランティアの受け入れ等、地域の人々との積極的な交流に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果について全体会議で話し合い、介護計画の見直しの時期や介護記録用紙の見直しを積極的に実施している。また、浴室の手すりも入居者の状態に合わせて増やしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価はユニット毎に話し合い、リーダーが意見をまとめ、その後管理者とリーダーの話し合いの上最終的なまとめを実施している。職員一人ひとりが評価の意義や狙いについて理解し、振り返りや見直しの機会と捉え、サービスの質の向上に活かす努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4 5 6)
	地域住民代表者(自治会)、地域包括支援センター、市職員、入居者家族参加の下、現在までに2回開催されている。主な討議内容は、事業所の現状報告、認知症の基礎知識等であり、会議メンバーからさまざまな意見を得ながら、地域の理解と支援を得るための努力がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族会の開催や、行事案内に出す往復はがきの返信欄に質問・意見欄を設けている。また、運営推進会議への参加等により意見苦情等を表せるようにしている。重要事項説明書に、サービス内容に関する相談・苦情・個人情報の取り扱いについての情報が明記されている。意見や苦情を受けた場合は報告書に記載し職員全員で情報提供し速やかな対応ができるよう取り組んでいる。対応結果も家族に報告し、記録もされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	自治会や幼稚園のイベントの参加等、地域の行事への積極的な参加や事業所の行事に招待したり各種ボランティアの受け入れ等、地域の人々との積極的な交流に努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の憲章を企業理念として事業所独自の、地域密着型サービスにおける役割を捉えた目標が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者とスタッフは毎日の朝礼で理念を唱和することにより、共有・具体化を図っている。また、日々の業務やミーティング、カンファレンスにおいて理念を行動化できるよう意識した取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の幼稚園や地域の自治会のイベントの参加・事業所の行事への招待・各種ボランティアの受け入れ等地域の人々との積極的な交流に努めている。地域とのいろいろな交流については運営推進会議や家族会で報告している。日本舞踊・唱歌の会・音楽療法等のボランティア活動が毎月実施されている。また近隣の人から花や野菜を頂くなど、地域の人々との交流が活発である。		入居者の心身の状態に配慮しつつ、地域の行事や老人会での交流を深めていく事を検討している。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価はユニット毎に話し合い、リーダーが意見をまとめ、その後管理者とリーダーの話し合いの上最終的なまとめを実施している。職員一人ひとりが評価の意義や狙いについて理解し、振り返りや見直しの機会ととらえ、サービスの質の向上に活かす努力をしている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、地域住民代表者（自治会）・地域包括支援センター・市職員・入居者家族7人程度・センター長・副センター長の参加のもと2回実施され、活動報告や認知症の基礎知識等の説明を行い、活発に意見交換された。次回開催予定もある。会議内容は議事録に記載され、スタッフにも報告されている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が開催する介護保険や消防関係等の会議には必ず参加している。会議では質問等を行い市の考えを傾聴し、サービスの向上に取り組んでいる。また、市の担当者の運営推進会議への参加・情報の提供等で行政との連絡を取り合っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時を利用し、きめ細かい情報提供を行っている。面会に来られない場合は出納報告や往診報告記録等と一緒に定期的に郵送し、また電話での報告も行っている。緊急時には電話等で速やかに家族への連絡を心がけている。そよ風便り（ホーム便り）を担当制で発行している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各種行事のお知らせには往復はがきを利用し、返信はがきに質問・意見欄を設け、家族に記載して頂く取り組みがなされている。意見や苦情があった場合は必ず報告書に記載し、職員全員で情報共有し、速やかな対応ができるよう取り組んでいる。対応結果は家族に報告し、記録している。家族会は年1回は開催され、率直な意見交換がなされている。運営推進会議に入居者の家族も参加していただき、活発な意見交換がなされている。また、重要事項説明書に、サービス内容に関する相談・苦情・個人情報の取り扱いについての情報が明記されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職時には担当していた入居者の家族に口頭で連絡している。入居者には不安を助長しないような職員配置が行えるよう努めている。</p>		
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>それぞれの職員のキャリアや力量に応じて外部研修の参加を促し、参加者は報告書や研修事例レポートを作成し全体会議で発表している。研修参加費等の法人の協力体制は整っている。また定期的に内部研修も行われている。</p>		<p>看護師が中心となり緊急時対応について勉強会の開催を検討している。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業所内外の研修や市主催の同業者との交流に参加し、サービスの質の確保・向上に取り組んでいる。また、職員のストレスの解消にもなっている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に事業所を見学してもらい、安心して納得した上で、サービスを利用できるようにしている。また、入居前の面談にて利用者・家族の意向を十分に把握するよう取り組んでいる。入居後も利用者の状況や家族の考えや方針によって柔軟に対応していくことを説明している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の得意分野に沿って調理・裁縫・洗濯・掃除等の役割への取り組みを支援している。また、入居者と職員が協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声かけをしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前・入居時の面接で入居者・家族の意向を把握すると共に、入居後も会話や表情等から希望・意向の把握に努めている。</p>		
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族との日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、利用者主体の介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に一度定期的に見直しを実施している。また、入居者の心身の変化や本人・家族の要望に応じて随時カンファレンスを行い、現状にあったケアプランの見直しを実践している。毎月介護計画にそって各項目のサービス内容を各勤務帯で確認し、×方式で記入し、できていない項目や時間帯が位置一目で分かるサービス経過記録表を利用し、検討・見直しが行われている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて通院や送迎、入院された入居者への面会等必要な支援は柔軟に対応し、支援している。また、医療連携体制を整え、日常での健康面への細やかな配慮と共に、重度化した場合でも入居者や家族の要望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を基本とし、希望する入居者へは柔軟に対応し、適切な医療の受診を心がけている。協力医療機関による月2回の訪問診療も実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居者や家族の意向を確認しながら、対応方針の統一を図っている。また、医療機関・医師・看護師との24時間連携体制を確立している。「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に説明し、同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程に明記され、入居時に利用者、家族に説明し同意を得ている。職員は利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の進行に伴い希望の表出や自己決定が困難になっていく中で、職員は入居者の望む日々の過ごし方を引き出す努力がなされている。「傾聴」の姿勢で心を受け止め、入居者のペースや希望に合わせ、自立を妨げないように見守りながら、日々の生活ペースを大切にしたケアがなされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々の力量に応じて、職員と共に旬の食材を取り入れながら、準備・食事・後片付けを行っている。職員は入居者と共に関心を持って食事の準備や片付けを行っている。職員は入居者と共に関心を持って食事の準備や片付けを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にはバイタルチェックをし、表情なども考慮しながら入浴支援を行っている。浴槽が二つあるため気の合う入居者同士の入浴を心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が日々の生活の中で生きがい・楽しみが感じられるようにカラオケを含む音楽療法やレクリエーション等、力量に応じて参加できるように多様な取り組みを支援している。また、入居者の生活歴をもとに食事作りや掃除、ガーデニング、裁縫等入居者の経験や知恵を発揮する場面を作り、日帰り旅行等遠出の外出支援も行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前が交通量の多い道路であり、入居者の重度化が進む中、入居者の体調や機能に応じて近隣への散歩や買い物等個別の外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前が交通量の多い道路のため、玄関は施錠されているが、家族には説明し、理解を得ている。各居室は施錠されていない。各ユニットのドアに鈴等音のなるものを付け安全面に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署と連携をとりながら、定期的に消防・避難訓練を実施している。水や食糧等も賞味期限に気をつけながら備蓄している。AEDの操作方法の訓練は全員終了している。消防署や近隣のコンビニを始め、地域の人々の協力が得られるよう、話し合いの場を設置している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の毎食の食事量や水分量をチェックし個別記録に記載されている。カロリー計算された法人の献立表はあるが、食事担当者が中心になって行事のある日や入居者の体調や嗜好に合わせ、カロリーやバランス等に注意しながら臨機応変にメニューを変更している。定期的に体重測定することにより、体調の変化を早期に確認できる取り組みがある。		

第三者 自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関周りはプランター等に色とりどりの花が植えられ、家族や近隣の人々が立ち寄りやすい雰囲気になっている。また、玄関は明るく、優しい色使いのクッションを使用した椅子が数脚置かれ、清潔感が感じさせられる。共有空間の照明は入居者を配慮した明るさになっており、近隣の人々から頂いた季節の花が飾られ、入居者に安らぎを与えている。また、換気に気をつけ、空気のよども感じられない。廊下等には入居者の家族が描かれた絵が飾られている。また、夏祭りに向けての作品が共有空間に飾られ、五感刺激にもなっている。</p>		
30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室への持込は自由で、使い慣れた家具や写真・思い出の品々が飾られ、居心地のよい居室づくりがなされている。</p>		

は、重点項目。